

## 26年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
入荷動向	スギ	16.7	0.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0
	カラマツ	0.0	20.0	20.0
	トドマツ	33.3	33.3	0.0
消費動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	トドマツ	0.0	△ 33.3	△ 33.3
在庫動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	20.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	33.3

・スギ原木の入荷は11月の増加が12月の横ばいを経て27年1月は減少に、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは11月の横ばいの後、12月、27年1月は増加に、トドマツは11月、12月の増加が27年1月は横ばいに。

・スギ原木の消費動向は11月の増加が、12月、27年1月は横ばいに、ヒノキ、カラマツ及びトドマツは11月の横ばいから12月、27年1月は減少に。

・スギ原木の在庫は11月の増加の後、12月、27年1月は横ばいに、カラマツは11月の横ばいが12月、27年1月は増加に、トドマツは11月、12月の横ばいが27年1月は増加に。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
スギ	42.9	40.0	40.0
ヒノキ	50.0	50.0	50.0
カラマツ	16.7	40.0	40.0
米マツ	60.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	60.0	25.0	50.0
その他	—	—	—

・合板用原木購入価格は、どの品目とも強含みで推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・カラマツ、トドマツは、12月になれば伐採時期に入るので入荷は増と見る、消費は減少、在庫は冬期間は増える。  
・スギの入荷は変わらず横ばい、カラマツは遅れて入荷。カラマツ入荷遅れによりスギの消費は多少増加、在庫は横ばい。  
・入荷は問題ないが、カラマツが難。今月も生産調整。  
・落ち着いた動き、地域により相場居所高まりつつあり。一部、地域物件がありスギの消費増、他は変わらず。今後冬場にさしかかるため在庫積み増ししたいところ。  
・計画通り入荷、消費も10月同様。在庫に大きな変動ないが、ヒノキ材が減少。  
・10月以降天候良く入荷は徐々に増えてきた。消費は11月は通常ベース、12月、1月は休み多く、減の見込み、10月以降は入荷の増、消費の減で在庫は増。

## (原木価格)

・スギは多少値上げ、カラマツは集まりが悪く11月より値上げ。丸太自体は横ばい。円安で価格は上昇。  
・丸太全てにおいて上昇、特にカラマツ。  
・国産材は地域間で温度差あるものの、全体的に上がり基調。外国産は夏頃の下落から一転、為替の影響大。  
・計画は横ばいだが、円安で国産カラマツほか価格は上昇の可能性ある。  
・スギ、ヒノキの購入価格は入荷量と市場価格を眺めながら決めていく。輸入材は急激な円安で円単価

## 26年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
生産動向	構造用(9mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 40.0
	〃 (12mm)	14.3	△ 16.7	△ 33.3
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 16.7	△ 33.3
	〃 (24mm)	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	〃 (28mm)	△ 14.3	0.0	△ 33.3
出荷動向	構造用(9mm)	33.3	△ 20.0	△ 40.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	〃 (15mm)	16.7	0.0	△ 20.0
	〃 (24mm)	14.3	△ 16.7	△ 33.3
	〃 (28mm)	16.7	0.0	△ 20.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 50.0	△ 20.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 33.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	0.0	25.0	25.0
	〃 (24mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	25.0	25.0

・9mm及び15mmの生産は3ヵ月連続の減少、12mm及び24mmは11月の増加ないし横ばいの後、12月、27年1月は減少、28mmは11月の減少、12月の横ばいが27年1月は再び減少に。

・9mm及び24mmの出荷は11月の増加の後、12月、27年1月は減少に、12mmは11月の横ばいが12月、27年1月は減少に、15mm及び28mmは11月の増加、12月の横ばいを経て27年1月は減少に。

・9mmの在庫は11月、12月の減少が27年1月は横ばいに、12mm及び24mmは11月の減少から12月、27年1月は横ばいに、15mm及び28mmは11月の横ばいから12月、27年1月は増加に。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
構造用(9mm)		△ 83.3	△ 40.0	0.0
〃 (12mm)		△ 85.7	△ 33.3	0.0
〃 (15mm)		△ 83.3	△ 20.0	20.0
〃 (24mm)		△ 85.7	△ 33.3	0.0
〃 (28mm)		△ 83.3	△ 20.0	20.0

・構造用合板出荷価格はどの品目も11月の弱含みから12月の弱保合を経て27年1月は総じて保合ないし、やや強保合に。

## モニターからのコメント

## (合板荷動き)

- ・若干生産減、適正在庫。
- ・9, 15, 28mmは在庫あるため生産は減少、12mmは決算により売りやすい物を作るため増。出荷は9mm以外はほぼ横ばい、在庫は11月決算により全品目減らしたい・・・。
- ・当月は生産調整、翌月以降、在庫、市況見て調。当月から引き合い多くなって来た。年末に向けて活発化か。在庫は生産調整、出荷減で、減か。
- ・少量生産なので大きな変化なし。出荷は動き悪く、市場価格低迷。構造用合板は現状の価格では対応せず、製造、販売共に意識的に減らし在庫も減らす考え。プレカット会社の動きが少々出てきたようです。
- ・10月同様の生産、生産量とほぼ同等の出荷、在庫は10月末4%減。全品種適正在庫の維持に努める。
- ・在庫を見ながら生産調整、九州の木造住宅着工量がまずまずの数字で10月以降も期待する。在庫は横ばいを維持。

## (合板価格)

- ・価格に変化あり(弱い)。
- ・全品目下落、ルート当用買いに徹している。プレカット工場からの新規受注が少ない。
- ・原材料UPに伴い、価格UPへ。
- ・住宅の動き次第だが、顧客からの情報では活発な傾向見られず、値戻しは難しいと予想。
- ・10月初旬より価格が下がり始めた。当月も現状維持が難しい状況。原料高が見込まれる中、厳しい状況にある。
- ・本州の価格下落の影響が九州にも影響する。12月以降の消費税UPの発表次第ではまた駆け込みが出だすかもしれない。